

南信州広域連合第7回広域連合会議 結果報告

日時：平成27年10月13日(火)14:26~15:11

場所：松川町役場 2階大会議室

1 開 会…14:26

【出席者】12 町村長（飯田市長・下條村長欠席）・佐藤副管理者

〔下伊那地方事務所〕松田副所長・棚田地域政策課担当係長

〔飯田保健福祉事務所〕寺井所長

〔飯田建設事務所〕水間所長

〔町村会〕牛久保事務局長

〔飯田広域消防〕桂消防長・関島消防次長兼総務課長・清水警防課長・有賀総務課長補佐兼庶務係長・宮澤警防課情報管理専門主査

〔飯田環境センター〕田見事務局長・北原事務局長補佐兼新焼却施設整備担当専門主査

【事務局】渡邊事務局長・塚平事務局次長・北原事務局次長補佐兼庶務係長・秦野事務局次長補佐兼広域振興係長・下島介護保険係長・前沢庶務係主事

2 広域連合長挨拶（代理・小池平谷村長）

正副連合長が不在ということで、副連合長が到着するまで私が進行させていただく。

本日は年1回の町村へ出での会議ということで、松川町には大変お世話になるがよろしくお願い申し上げます。また地方事務所・建設事務所及び保健福祉事務所の方々にお忙しい中ご出席賜り、御礼申し上げます。

3 協議・報告事項

(1) 9/19 航空宇宙産業を先導役として地域産業の将来を考えるシンポジウム 概要報告

…資料1による説明（佐藤副管理者）

9月19日に開催したシンポジウムについて。午前中の講師とパネリスト等の事前懇談会に阿部知事にもご出席いただいた。阿部知事は午後のシンポジウムにも参加予定だったが不参加となったため、シンポジウムにビデオ出演していただくためのビデオ撮りをした後に懇談会を行い、その後長野市へとんぼ返りされるという大変忙しいスケジュールの中で参加していただき、事前懇談会が執り行えた。そこで阿部知事からご発言があり、「県としても積極的に応援していきたいし、責任ある取り組みをしていきたい」というお話があった。

午後のシンポジウムについては500人超の参加者にお集まりいただき、充実したシンポジウムが開催できた。行政関係者のみならず、一般参加者という形で300人超の方々に参加していただいた。航空宇宙産業関連の方々以外にも教育機関や金融機関あるいは県外から、大勢の方にご参加いただけたことが大変良かったと思う。シンポジウムの内容については、ケベック州の取り組みについての基調講演、国としての考え方について経済産業省・飯田参事官の基調講演、その後に行われたパネルディスカッション。

今後の方向性について。信州大学の講座ができ、将来的には南信州キャンパスという構想もある中で、「航空機システム」の講座をしっかりとやっていきたいということ。産業センター・EMCセンターの公的試験場としての機能を向上させる中で、飯田下伊那地域を航空宇宙産業集積地としてステップアップしていこうということ。あとその中で、旧飯田工業高校の活用について「知の拠点」として使っていこうということ。詳細については、産業センター側がまとめる報告書をご覧ください。

追加で報告。この中の「信州大学との共同講座」をしっかりと支えていくための組織が必要ということで、先般コンソーシアムを立ち上げるための準備会として一度会合を行っている。まだ発足とま

ではいかないが、コンソーシアムはどういったメンバーでどういった役割を担っていくかということや、具体的にどういった経費がかかることになるのかということ準備会の中で整理していきたいということで、信州大学工学部長をはじめとする信州大学のその他メンバー・金融機関・行政関係者及び萩本副会長を含む産業関係者たちが集まった。これも実際に発足の段階まで話が詰まったら改めてご報告させていただく。

【感想】（深津松川町長）

シンポジウムに松川町議会議員も参加した。内容がわかりやすく、航空宇宙産業に取り組んでいく理由が理解できたという感想もいただいた。非常に有意義だったと思う。「信州大学が乗り出してくれたということが大きい」という声も聞くので、これをさらに発展させていってほしい。

【質疑】（下平豊丘村長）

最近「バイオ」の話が新聞に載っていたが、詳細を説明していただきたい。

【応答】（佐藤副管理者）

「バイオビレッジ構想」について。現在北海道大学の一室を借りて(株)モノクローナルとして活動されている野崎先生が「将来、退官後の研究者をどこかに集めて一緒に住みながら退官後の人生を送る場所を作れないか」という構想を持っている。その野崎先生が飯田にお見えになり、大瀬木地籍の南アルプスが一望できる土地を今回お買い求めになり、将来その土地に大学を退官されたバイオ関係の研究者が集まれるような場所を作りたいという構想を株式会社として近く発足することで準備人会・発起人会が開催された。これが先般のニュースである。

当面は(株)モノクローナルの本拠を飯田市大瀬木に移すということで、今回買った土地の一部を使って(株)モノクローナルがスタートする。形式としては、(株)バイオビレッジの土地の一部を(株)モノクローナルが借りて入居するという形。将来構想はそこに入居者の皆さんが集まってこれる場所を作りたいというのが野崎先生の構想。

【質疑】（下平豊丘村長）

伊那谷全体の将来の発展に向けて、観光や産業などたくさんの可能性がある。都市部の若い世代の人たちは雇用さえあれば何としても田舎に家を持って子どもを育てたいという要望を抱いている。特殊な個性のある研究所も非常に大事で良いと思うが、それだけではなく、例えばリアが通ることで発展する観光やその他の第3次産業など、色々なかたちで働けるような将来の展望を示してもらいながら一緒に研究させてもらえると、幅の広い地域の発展ができるのではないかと。個性のある研究所だけではなく、バランスのとれた発展を遂げたことで都市部から田舎へ家族での移住が実現したという成功例もある。何かひとつだけに特化するのではなく、広域連合としては14市町村それぞれのポジションの特性を生かして、バランスの良い流れをお願いしたい。そのためにはインフラが一番大事。そのインフラをいつまでにどのような形で国や県と協力しながら構築していくか、目標を示していただけるとありがたい。正直なところ、広域連合は飯田市の計画についていくことになるので、よろしくをお願いしたい。

【質疑】（松島泰阜村長）

受け売りになるが、この地域の一番弱い部分である「研究」・「開発」が、飯田下伊那に退官後の研究者たちが来ることによってレベルアップし、その結果若い研究者も来るかもしれないとなると、この地域の開発力が高まって好循環が生まれるということだと思う。そういった方向での支援を広域としてできたら良いかと思う。それから、学者たちが持っている図書を持ってきて専門書の図書館のようなものにするのも良い。

【応答】（佐藤副管理者）

専門書の件はまさに旧飯田工業高校後利用の中にある「アーカイブ機能」にあたる。先生方が持っている行き先が難しい図書類は世の中に膨大にある。例えば法政大学の高柳先生が持っている「伊那谷文庫」など。そういった書籍類をどこかに置く場所はないかという声もあがっているので、旧飯田工業高校後地にできる「知の拠点」に行けばそこに揃っているという環境はある意味両方のニーズに合う。よって「アーカイブ機能」の大部分はこういった内容になっていくというイメージ。

【質疑】（深津松川町長）

高柳先生の書籍の置き場という話が出たが、あの文献は桁外れの量だ。

【応答】(佐藤副管理者)

例えば高柳先生がいずれ退官された時に、保管場所として用意できれば良いかと思う。実は研究者にとっては「書籍の行き先」は大きな悩みで、泣く泣く手放す研究者もいると聞いている。よって双方の思いが合えば保管場所を作っていくという考え方。

【質疑】(熊谷高森町長)

高森町で懇談会を実施した際に、旧飯田工業高校後地で計画している信州大学との連携による共同研究講座について質問を受けた。「信州大学の先生は常にいるのか」「定員はどのくらいか」「当講座を学ぶのは学生なのか社会人なのか」など。そういった内容はもう決まっているのか。

【応答】(佐藤副管理者)

まだ固まっていない。先日の準備会の時も、現在そういったところについて議論しているという説明があった。確定したもとして信州大学側が発表できるような環境にはまだ至っていない。

ただ、定員については何十人もということにはならない。大学院なので一学年10人程度。在籍する教授については、先日のシンポジウムの資料内容によれば専任教授が1人、特任という形で1人、できれば助教的な形でもう1人という2~3人体制でスタートする予定。そうすると、持てる学生の数も学年で10人に満たない数になるのではないかという話がある。大卒の学生に限定するのか、社会人にも門戸を開くのかというのは授業内容にも関係してくるので、まだその点については今後詰めていくことになる。

【質疑】(熊谷高森町長)

では旧飯田工業高校後地の活用の中では、かなりの部分を信州大学との共同研究講座で占めるということはないのか。

【応答】(佐藤副管理者)

今は1フロアを当面使っていくというイメージで場所を取ってある。将来的な南信州キャンパスという段階になれば2フロア使えるように場所取りを構想しているが、まだ工学部長はじめ先生方に現地を見てもらっていないので、具体的にどういった面積を使うかということはまだ未定。近々先生方に視察してもらい、再来年4月の開校時には最低限どういった条件が必要かという点を今後詰めていく。

【質疑】(松島泰阜村長)

今の話は「なるべく早く航空機システム工学科という信州大学の学科を位置づけてもらう」という認識で合っているか。

【応答】(佐藤副管理者)

信州大学の中で早くそういう位置づけにしてもらうという動きを我々としてはしっかり応援していくということ。

(2) 医療と介護連携について

…資料2による説明(渡邊事務局長)

新年度に向けて、当面何がポイントになっているのかという点を説明する。資料の表は、厚生労働省が示している8つの項目についてそれぞれどこが主体となってやっていくべきかというところ、あるいはそれぞれの主体がどんな役割があるのかというところを大雑把に整理したもの。表中に「広域的な組織」とあるが、広域的に何をやっていくべきかを整理して、それがどの程度の頻度や事務量のウェイトがあるのかを今詰めようとしているところ。来年の4月から具体的に何をすべきか、あるいは平成30年4月までにどういう段階でやらなければならないかということ整理する中で、広域的にやっていくべきものはどういう組織でやっていくのか。例えば広域連合の一つの事務にするのか、あるいは違う方法があるのか。そういったところを早急にいくつか選択肢を示したいと思う。その点を協議いただく中で、予算等も含めた新年度の具体的な話になっていくので、できれば11月頃に予算編成をにらみながら整理したものを示していきたいと思う。現段階ではたたき台を整理しつつあるという状況をご理解いただきたい。

【質疑なし】

(3) 10/7 南部国道連絡会意見交換会及び情報交換会の報告について

…口頭による説明（渡邊事務局長）

内閣改造等がタイミング的にちょうど重なってしまい、急遽国会議員欠席となった。意見交換会のあの形をベースにしながらか、新年度はどのような形でやっていくか、またご意見をいただきたい。11月18日の全国町村長大会の日に中部国道があるので、引き続きよろしくお願ひしたい。

【質疑なし】

(4) 大学入試センター試験会場の要望について

…資料4による説明（渡邊事務局長）

資料は県教委が信州大学の学長に要望を出したものの写し。9月28日に1回目のワーキンググループが開かれたと聞いている。詳細は不明だが、年度末を目途に一定の方向を示すように会が進められているようである。結果として来年1月のセンター試験には間に合わないということだが、できれば再来年のセンター試験には我々の要望が叶うように運動を継続していきたい。

なお、前回の連合会議の際に県議会宛の要望を提出したが、10月9日の県議会の文教企業委員会で陳情の採択をしていただいた。また運動を進めていきたい。

以上の経過をご承知願ひたい。

【質疑なし】

(5) 市町村別火災発生状況及び熱中症疑いによる救急搬送の状況について

…資料5による説明（関島消防次長兼総務課長）

資料表面は10月7日現在の市町村別火災発生状況。10月12日現在も件数に変更なし。67件の火災が発生している。建物火災については昨年と比較し3件の増加。当面については、暖房器具等の取扱いが増加する時期を控え、火災予防運動が始まる機会を捉えて広報に努めていく。

資料裏面は熱中症疑いによる救急搬送の状況。昨年の調査期間は5月19日から10月5日までの140日間で、今年の調査期間は4月27日から10月4日までの160日間。今年熱中症疑いで搬送した人数は83人。うち重症者（3週間以上の入院を要する者）は1人。年齢別及び市町村別の搬送人員については資料参照。高齢者の搬送については61人で、昨年と比較し30人増加し、全体の73%を占める。この結果を基に、来年の気候等をふまえながら予防広報に努めていく。

【質疑なし】

(6) いいむす21について

…資料7による説明（秦野事務局次長補佐兼広域振興係長）

南信州いいむす21登録事業所の更新について。審査の結果「適合」と認められた1件の登録をお認めいただきたい。区分は初級（更新）、有限会社カメラヤマ様。

【質疑なし、承認】

(7) 後援依頼

…資料6による説明（北原事務局次長補佐兼庶務係長）

資料6-1について…「ものづくり産業と若い人材達の魅力発信シンポジウム」（南信工科短大振興会）の後援依頼。11月14日（土）、飯田合同庁舎にて開催。内容については資料参照。

資料6-2について…「第1回三遠南信食の祭典」（愛知県北設楽郡豊根村長）の後援名義の使用について。10月25日（日）、茶臼山高原にて開催。9月末日が後援のメ切となっていたため、連合長決裁を受け承諾させていただいた。

1件目の「ものづくり産業と若い人材達の魅力発信シンポジウム」の後援についてご協議願ひたい。

【質疑なし、後援承諾】

(8) その他 【事務局の職員体制について】

…口頭による説明（渡邊事務局長）

10月1日付で事務局職員の異動があった。町村長宛FAXにてお知らせしたが、飯田市から派遣されていた宮島主事が飯田市へ戻り、新たに飯田市から倉地主事が派遣された。それから今年4月に新規採用した久保田主事を正式採用とした。本日倉地主事及び久保田主事は出張中のため、2人には次の機会に挨拶をさせるのでよろしくをお願いしたい。

4 長野県

●下伊那地方事務所

…資料（ナンバーなし）による説明（松田副所長）

地方事務所長からの施策提案についての報告。昨年は伝統芸能の継承事業及び市田柿ブランド化の強化事業を提案させていただき、予算化されて今年事業実施させていただいている。今年度の9月17日に県庁にて知事等にプレゼンテーションを行った。本資料はその時のプレゼンテーション資料。

提案の概要について。本年度は「南信州竹取再生物語」と題して、放置竹林の整備・維持、孟宗竹の活用、販路開拓について提案した。飯田下伊那は竹林の里だが、安価な中国産たけのこの流通量の増加や竹材利用の減少などの影響により、南信州地域においても放置竹林の増加が目立ち始めている。孟宗竹の竹林は、徐々に他の高地や森林に侵入する性質があり、何もせずに見過ごせば地域の脅威になりかねない。その一方で、間伐等でしっかり管理して利用すれば有用な「資源」になり、磨けば地域の「宝」になるという視点に立ち、施策を提案した。

具体的な施策としては、①竹林整備・維持管理体制の創設 ②集荷・加工・保管拠点の整備 ③販路開拓・新商品開発 の3つを提案した。知事等からは一定の評価をいただき、来年度の予算化へ向けて県内部で調整を行っていく。

以上、市町村長の皆様へご報告すると共に、一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【質疑なし】

●飯田建設事務所

…資料（ナンバーなし）による説明（水間所長）

道路の開通に関する情報提供。三遠南信自動車道の現道活用区間として国道152号線の整備を行ってきた。この内、小道木バイパスの1.7kmが10月17日（土）に開通する。国道152号線整備区間は矢筈トンネル出口から青崩峠入口まで21.1kmあるが、まだ開通していない箇所は和田バイパスの一部（約600m）で、この箇所も順調にいけば来年度開通予定。よって国道152号線の現道活用区間は小嵐バイパスの部分を除いてほとんど開通してくる。

国道256号線の上久堅拡幅について。これも三遠南信自動車道の関連工事として拡幅しているが、10月16日（金）に西側の800mが一部供用開始（全体1.8km）。これまで非常に狭隘な区間が解消されて2車線道路になる。

【質疑なし】

●飯田保健福祉事務所…なし

5 お知らせ 【「平成27年度長野県経営者協会上伊那・飯田支部合同懇談会」について】

…資料（ナンバーなし）による説明（渡邊事務局長）

長野県経営者協会からの懇談会・講演会について。萩本副会長からの連絡により、町村長の皆様にご案内させていただく。10月26日（月）シルクホテルにて上伊那と飯田支部合同の懇談会が開催される。経済産業省の地域経済産業審議官がお見えになり、基調講演をされる。その後討論会が催される。先程のバイオの話や航空機産業、あるいは上伊那のアグリイノベーションの取り組み等々の内容を話される予定。各町村長または副町村長・職員の方々、ご都合のつく方はぜひご参加いただきたい。

6 今後の日程

10月18日(日) 南信州フェア in 金山(名古屋市)

11月13日(金) 広域連合会議

12月1日(火) 広域連合議会 第2回定例会

7 閉会…15:11